

付録

1. 100BASE-TX/10BASE-T インタフェース

- (1) 接続コネクタ
8ピンモジュラージャック (ISO8877)
- (2) 端子対応

ピン	信号
1	R D +
2	R D -
3	T D +
4	未使用
5	未使用
6	T D -
7	未使用
8	未使用

ツイストペアケーブルの放電方法

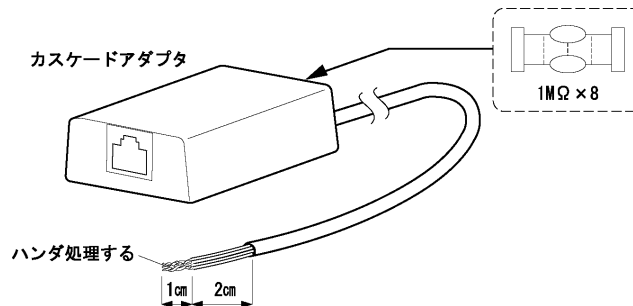
ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、治具を用いて帯電している静電気をFG（ビルアースなど）に放電してください。このとき、ツイストペアケーブルの両端は機器から抜いておいてください。

放電した後はツイストペアケーブルを速やかに機器へ接続してください。放電後、ツイストペアケーブルを機器へ接続しないまま長時間放置すると、放電効果は失われるので注意してください。

注）電子機器類のFGは使用しないでください。電源系FG、ビルアース、水道管が使用可能です。

[治具の作成]

- ・カスケードアダプタで作成する場合



(1) アダプタケース側

- カスケードアダプタのケースを外す。
- 各信号線がねじ止めされている場合はソケット側もしくはプラグ側どちらかを外し、8本の信号線がそれぞれシリーズになるように抵抗（1M）を実装する。
- 各信号線がソケット側及びプラグ側共にハンダ付けの場合は各信号線を外し8本の信号線がそれぞれシリーズになるように抵抗（1M）を実装する。
- 抵抗の実装が完了したら、カスケードアダプタのケースを元に戻す。

注）各信号線がショートしないようにする。

(2) ツイストペアケーブル側

- カスケードアダプタのプラグを切り離し、被覆を3cm程剥いて8本の信号線の撚りを戻す。

- (b) 8本の信号線それぞれの被覆を1cm程剥く。
- (c) 被覆を剥いた8本の信号線をひとつに束ねてハンダ処理する。

[治具の使用方法]

- (1) ツイストペアケーブルの両端が装置(Hub/ルータ/ワークステーション)から抜けていることを確認してください。
- (2) 治具にツイストペアケーブルの一方のプラグを差し込む。
(ツイストペアケーブルの状態は両端開放及び片側開放どちらでも可能)
- (3) 治具のハンダで束ねた部分をFGに接続。(接触)
注) 最低1分間接触させること。(2,3秒では放電しきれない)
電子機器のFGには接続しないこと。
電源のFGを使用するときは、AC電源と短絡しないように注意すること。
- (4) 放電作業が完了(FGに接続した時点で完了)したら、治具をツイストペアケーブルから外し、ツイストペアケーブルを装置に速やかに接続する。
- (5) 接続するツイストペアケーブルを1本ずつ(1)~(4)まで繰り返し実施する。

MEMO

SH1508 スイッチングハブ

取扱説明書

発行日 2002年2月

版数 CA05951-7460/01

発行責任 富士通株式会社

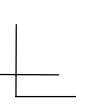
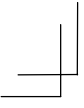
Printed in China

本書は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

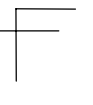
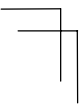
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権その他の権利については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。



FUJITSU



(裏表紙)